

1. 授業担当者(教科)：牛込 裕樹 (社会)

2. 対象クラス：中学1年4組(アドバンストコース) 地理

3. 単元名・教材：帝国書院 『中学生の地理』 第3章 3節 アフリカ州

4. 単元観・教材観

アフリカ州を学習する場合、厳しい自然環境や植民地の歴史からとらえるアフリカ州の現状把握に力点が置かれ、アフリカ州の各国の内発的な努力に触れることは少ない。モノカルチャー経済や貧困、環境破壊といったアフリカの側面は、当然アフリカ州を理解する上で重要なキーワードではあるが、アフリカ州の内部から沸き起こる努力や取り組みに焦点を当てることで、貧困や紛争を乗り越え、将来性のあるアフリカ州にクローズアップすることができると考えた。そうした観点から、今回の授業で扱う題材を選んだ。

本授業では、生徒にとってなじみが薄く予備知識の少ないアフリカ州について、関心を持たせることが第一に必要となる。そして、アフリカ州に対する「負」のイメージだけでなく、将来に向けたアフリカ州諸国のあり方、関係する先進国の価値観などをグループごとで考え、発表することで地域を分析する手法や、各国の抱える問題点や今後の方策について考えることができる。

5. 単元の目標

アフリカ州の資源や文化などについての特徴を知り、それらの価値を知ることができる。グループワークでアフリカ州の特徴について意見をまとめ発表できる。他のグループの考えを聞き、評価をすることができる。アフリカ州の内発的な発展について議論することができる。

6. 単元の評価基準

A：基礎知識・技能	B：思考力・判断力・表現力	C：主体性・多様性・協働性
①地図帳や教科書から、アフリカ州の資源分布などのデータを収集することができる。 ②タブレットを用い、調べることができる。	①各種データから、アフリカ州の特徴を読み取ることができる。 ②グループの意見を適切な方法で発表することができる。	①グループの話し合いに共同的な姿勢で取り組むことができる。 ②グループの意見をまとめることができる ③意見の考えの違いを受け入れるとともに、適切な質問をすることができる。

7. 単元の指導と評価の計画

授業時数	主な学習内容	評価
1 時間目	アフリカ州のイメージから学ぶ。自然環境について	A①
2 時間目	復習とアフリカ州の歩みと文化について	A①B①
3 時間目	アフリカ州各国の現状把握とデータを分析し発表する練習	A②B①②C①②
本時	単元のまとめとして、アフリカ州の進むべき方向性を発表する	B①②C①②③

8. 本時の目標

アフリカ州に潜在的に存在する各種資源とそれらの活用方法の分析・検討を行い、理想的なアフリカ州諸国のあり方や方向性について発表する。

9. 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	○目標提示：今日は各国の大使になったつもりで、自国の将来について発表してもらう。 これまでの授業から、今まで感じていたアフリカ州のイメージとの際を確認する。	あくまでもイメージの変化なので、数名を指名して答えさせる。	
展開Ⅰ (10分)	○ワークシートによる作業 1. タブレット PC を用いて各グループ、与えられた国についてデータを分析して各国の長所短所をワークシートに記入する。 2. 自国の短所を補ったり、長所をさらに伸ばそうと考えるとき、他国との協力や取引が必要かどうか、話し合う。	・選定する国は、東西南北アフリカよりバランスよく選ぶ。 ・長所短所がどちらか一方のみにならないように注意を促す。 ・アフリカ州内に限らず、世界全体を見渡した中で考えさせる。 ・アフリカ州以外に協力関係を求める場合は、その国名と内容をワークシートに記入させる。	A② B①
展開Ⅱ (15分)	○グループ間交渉 1. あらかじめ決めてある外務大臣役の生徒が、各国との交渉を行う。 2. 担当国の将来プランをワークシートにまとめる。 3. ワークシートの内容から、発表に使う内容を抜き出し、プレゼンテーションアプリケーションに入力する。	○プレゼンテーション資料の内容 テーマ：「私たちの国の将来プラン」 ・どのような国にしたいか ・プランの内容 ・実現の方法 ・実現の条件（他国との関わり方） 他国からの援助に頼り過ぎない計画を作成することに留意させる。	B② C①②
まとめ (発表) (20分)	1. 各グループ2分毎で発表を行う。 2. 発表後、1分間の質疑応答の時間をとる。	発表評価用の用紙を配布し、各グループの発表を聞いて記入する。	B② C②③

10. その他